自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人平成会　グループホーム栄田
（ユニット名）	1階
所在地 （県・市町村名）	長崎県諫早市栄田町42－58
記入者名 （管理者）	管理者　立石　秀明
記入日	平成　20　年　11　月　2　日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ■ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は作成できている。広報紙発行し、運営推進会議等で配布しているが、啓発活動としては不十分さがある。	○	今後も運営推進会議の場も活用しながら、地域の方々への理解を深めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員で検討して共有している。また、日々の生活に活かしていくよう取り組んでいる。	○	勉強会や日々のミーティングを活用し、理念の実践が継続して取り組めるよう努めたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は玄関やホーム内に掲示し、入居時に説明している。地域に対しては運営推進会議以外で交流する機会が少なく、理念の浸透は不十分である。	○	掲示は常に見やすく、特に玄関掲示分は来訪された方が見て理解してもらえる工夫をしていきたい。また、地域交流を増やし、理念浸透の機会を設けたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事、ホームでの行事で交流し、普段から声をかけあい顔なじみの関係になっている。しかし、行事以外で立ち寄ってもらえるようなつき合いまでには至っていない。	○	今後も行事を通しての交流を図りながら立ち寄ってもらいやすい環境作りをしていきたい。併せてホームから積極的に地域に向けて声をかけていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事や活動に参加している。近隣の学校の職場体験や実習を受け入れている。	○	さらにホームが地域の一員として地域全体に認識もらえるよう、地域行事や活動に参加していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしについての話し合いが殆どできておらず、支援もできていない状況である。	○	職員間で話し合いをする時間をつくり、事業所として取り組めることを見つけ、実践へとつなげていきたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価についての説明を行い、理解を深めている。評価後の改善点については職員間で話し合い、できるところから取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で、外部評価についての取り組みや評価報告を行った。会議内での意見を取り入れ、サービス向上に活かしていくよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に市町村担当者との連携が十分なされず、関わりが希薄である。	○	市町村担当者との情報交換を十分に行い、連携を密にしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会が少なく、十分に理解を深めるところまで至っていない。	○	勉強会のテーマとして取り上げ、全職員の理解を深めたい。また、それらの情報を得た時は共有し、必要なときに支援できる体制にしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は少ない。職員間で支援する中で虐待がないか注意を払い、防止に努めている。	○	虐待防止の徹底の為、勉強会やカンファレンスのテーマとして取り上げていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書について理解、納得していただけるようにひとつずつ十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が自由に意見が出せるよう意見箱を設置している。それらの意見は職員間の情報として共有し、日々の生活に反映できるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、日々の様子を伝えている。遠方で普段面会に来られる事が難しい家族には、電話や手紙を利用して定期的に報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置により、意見が表せる機会を設けている。意見は職員間で共有し、苦情等の改善点があれば改善できるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案をしてもらい、検討・反映させている。	○	さらに多くの職員から意見を出してもらえるよう、ミーティングやカンファレンスを活用していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じた勤務調整を行い、柔軟な対応ができている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動等の変化がある時は必要に応じて説明を行い、ダメージが少なくなるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会、法人外のグループホーム連絡協議会の研修に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修で交流や意見交換をしているが、定期的な交流はできていない。	○	同業者の相互訪問も殆どできていないので、行事参加や呼びかけを行い、交流の機会を増やしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で話をし、ストレス解消ができているところもあるが全職員のストレスが軽減しているかの確認はできず、不明なところはある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々が役割を持ち、向上心を持って働けるよう職員同士で連携している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人との面接も行い、話を伺っている。入居後もよく話を聞くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、困っている事等の話を伺っている。入居後も家族の意見が反映できるよう、不安な事等も解決できるよう努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているサービスが利用できるよう対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の小規模通所介護を利用し、環境に馴染んでいただき、入居された方もいる。また、すぐに馴染んでもらえるような雰囲気作りや環境作りにも工夫をしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、職員も入居者と一緒に活動することで、教えていただくことが多く、学ぶ機会が多く見られる。また、そのような場面作りも工夫している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子は家族に伝え、その方にあった支援のあり方や家族の意向を取り入れて関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族とのコミュニケーションを図り、職員もかかわることで各家族に合った支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人、入居前に住んでいた近所の方の面会があり、交流している。また、知人へハガキを書いて交流されている方もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者同士の関係を把握し、関わっている。入居者同士の関わりを好まれない入居者のフォローもしているが不十分さもある。	○	職員間の情報共有を密にしていく。孤立しがちな入居者との関わる時間をもち、無理にならないように配慮しながらも他入居者と関わる場面作りに努めたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、サービス終了後に継続的な関わりを必要とする利用者や家族がいない。	○	今後、必要とする利用者や家族がでてくる事も考えられるので、現在利用中の方々の意向や意見をききき、対応できるよう備えていきたい。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を聞き、できる限り取り入れて検討しているが、全入居者の意向を取り入れることができていない。	○	普段の会話から入居者の意向を聞き、家族からも意向を聞き、全職員が把握する。また、その内容は情報として共有できるよう工夫する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話の中から把握している。また、ケアプラン作成時のセンター方式を活用することでさらに把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの体調や状況を見ながら、その方に適した過ごし方を把握し、支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、必要とするケアを取り入れ、一人ひとりに合った介護計画を作成している。家族とも話し合い、要望があれば介護計画の中に反映させていくようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化等があれば介護計画を見直し、現状に即した介護計画を作成し、家族と話し合っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など個別のケース記録に記入しているが、介護計画に沿った記録は不十分で、十分活かしているとはいえない。	○	介護計画が実践できているかのチェックを行い、記録に残し、介護計画の見直しにも活用できる記録にしていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している小規模通所介護利用者との交流を楽しみにしている入居者や家族がいる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練に参加していただいたり、実習や職場体験を受け入れたりしている。	○	本人の意向や必要性に応じての協働について職員間で検討する機会を設けたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者が他のサービスを活用することがなく、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いをすることが殆どない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	殆ど地域包括支援センターとの協働ができていない。	○	必要に応じて協働していけるよう情報交換を行うように取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院をかかりつけ医とし、受診している。持病所と病院との連携もできており、適切な医療が受けられている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の受診はしていないが、入居者それぞれのかかりつけ医に認知症の理解をしていただき、診断や治療等の対応をしていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に看護師の資格を持つ職員と連携し、入居者の健康管理をしている。必要に応じて指示をもらい、適した対応をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は主治医や看護師と情報交換をこまめに行い、状態把握をしている。退院にむけて、家族、主治医、ソーシャルワーカーと話し合い、可能な限り早期に退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた時に家族と今後の方針を検討する事が多く、早い段階での検討は不十分である。終末期についても検討が殆どできていない。	○	本人や家族の意向を聞き、主治医も含めて早い段階での話し合いをする機会を設ける。また、全職員が方針を把握できるよう工夫もしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した時、主治医からの情報や助言を踏まえ、家族の意向も取り入れながら職員間で検討している。今後の方針として職員が把握し、支援に取り組んでいる。	○	終末期についての理解を深め、対応できる体制作りに向けてチームとして取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居する際、馴染みの物を持参していただいてる。本人や家族から話を聞き、その情報を支援に活かしている。家族には必要に応じて協力いただくこともある。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った声かけや対応を行っている。個人情報は、プライバシーを損ねることがないよう徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が思いや希望を表せるように働きかけ、理解できるよう説明をしている。できる限り本人に行ってもらい、必要な時や状況に応じて支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日の心身状態に合わせて一日の過ごし方を決めてもらい、希望に沿うよう支援している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみができている。美容は、訪問美容を利用している方が多く、本人が希望する店に行く人が少ない為、全員が望むおしゃれの支援はできていない。	○	近隣の美容室を利用したり、必要に応じて家族にも協力していただきながら本人の望む店への外出をしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に入居者の希望を取り入れている。入居者の状態に応じて野菜の下ごしらえや調理、片付けを一緒に行っている。食事は入居者の状態に応じて食べやすいよう工夫し、入居者と職員が同じテーブルで一緒に食事をしている。	○	献立に取り入れるのが難しいものを希望される時に外食に行く等、希望に応じていきたい。外食だけでなく、一緒にお弁当を作って近くの公園に行ったり、デッキを利用したりしながら普段の雰囲気と違う環境で食事を楽しんでもらえるよう工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等の嗜好品を購入し、日常的に楽しめるように準備している。食材購入に同行し、購入している方もいるが、全員が好みのものを楽しめているとはいえない。	○	入居者全員が好みの物を楽しめるよう、状況に合わせて支援できるように取り組みたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を減らすよう、排泄チェック表をつけたり、トイレ誘導を行っている。また、個人に応じた下着、オムツを選び、支援している。トイレは常に清掃し、自立の方も気持ちよく排泄できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの提供を基本とし、時間帯を決めて行っている。希望されない時は体調、状況をみながら希望に応じて入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりが好まれる場所で安心して休息されている。昼間にレクリエーション等の活動を行い、夜間は安眠できるよう支援している。また、室温の調整を行い、快適な環境を提供している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活暦や力を活かした役割（家事手伝い等）の支援をしている。また、一人ひとりに合った楽しみごと（週刊誌、パズル、トランプ等）を提供し、気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり、使えるよう支援しているが、所持することや使うことが困難な入居者もいる為、全入居者の希望に応じた支援はできていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望も取り入れながら少人数で外出できるよう支援している。しかし、外出を好まれない方に対しての支援が不十分である。	○	本人の心身状態や気候をみて、散歩や外出する機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出は行事（花見や日帰り温泉旅行等）の時が多く、十分には支援できていない。	○	入居者が行ってみたい場所を聞き、家族とも話をしてできる限り希望する場所への外出をする機会をつくり、支援していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人より電話がかかると話をされるが、こちらからかける支援はできていない。手紙については、ハガキを自由に書いていただき、やりとりされる方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	その時の状況に合った場所へ案内し、ゆっくりと過ごしていただいている。また、ゆっくりと過ごしていただけるような雰囲気づくりに努めている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はないが、言葉による拘束になりかねない声かけを見受けることがある。	○	危険回避の為の声かけによって、入居者の行動を制限していることがあるので、声かけやケアをあり方を検討していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はない。玄関はセンサーがあるが自動ドアである。職員の声かけ、見守りを行い、入居者ひとりでの外出を未然に防いでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は所在、様子の把握ができているが、夜間は居室にバリケードをする入居者がいる為、様子確認が難しいことがある。	○	夜間にバリケードをしなくても安心して休めるよう声かけをこまめに行い様子確認ができるようにしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は危険性を考慮した保管場所を設定している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故については事故報告書を作成し、回覧している。情報共有した上でカンファレンスを行い、改善及び事故の再発防止に努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時等のマニュアルを掲示し、対応できるように備えているが全職員の熟知には至っていない。応急手当の研修にも参加しているが定期的な訓練はできていない。	○	研修に参加した職員に勉強会で報告してもらい、訓練へとつなげていきたい。マニュアル掲示を工夫し、全職員が熟知できるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は実施しているが回数が少なく、十分方法を身につけているとはいえない。また、火災以外の災害時想定の訓練は実施できていない。火災避難訓練では、地域の方々に参加していただいており、協力を得られるよう働きかけているがまだ不十分さを感じる。	○	災害時全てを想定した訓練を定期的に実施し、その都度地域の方々に参加していただき、協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化がみられた時、状態や今後起こり得るリスクを家族に説明し、検討する。その方に合った対応策を一緒に考え、決めていくようにしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の異変を発見したら、すぐに受診している。こまめな様子観察を行い、その中での気づきや、受診後の報告は記録にも残し、情報共有して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の資格をもつ職員を中心に服薬管理をしている。薬の情報は共有し、変更あれば確実に申し送りをしている。服薬介助をする時は、服薬が終わるまで確実に確認をするよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として、ヤクルト飲用やヨーグルト等の乳製品、果物の摂取など、その方に合った飲食物の工夫をしている。便秘がちな方は、主治医と相談し、内服薬を処方していただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアはできていない。朝、夕食後は適切にできている。自立で歯磨きをされる方の口腔内の確認が十分に行えていない。	○	毎食後の口腔ケアを実施する。自立でできる方は継続して取り組んでいただき、夕食後には必ず口腔内の確認をするよう徹底した口腔ケアをしていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、その方に合った食事を提供し、毎食の摂取量を把握している。詩文摂取量も1日を通して計量し、記録に残し把握して支援している。	○	今後も必要な栄養摂取ができるよう調理の工夫や食材の代替等の工夫をしながら継続して提供していきたい。水分摂取量はたまに記録もれがある為、チェックの方法を検討し、確実に実践していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種をかかりつけ医にて実施している。他の感染症についても手洗い、うがい、手の消毒を徹底している。ホーム内に貼り紙で家族や来訪者にも呼びかけて実施していただいている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮で安全なものを使用し、管理もできている。食中毒予防として、調理用具の材質に合わせ、台所用ハイター、熱湯、日光で消毒している。また、台所も使用後は必ず環境整備をしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に手すりやスロープがあり、玄関も殆ど段差がない造りになっている。手作りの看板があり、花を植えて親しみやすいような工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた飾りや花を飾り、季節感を感じることができるように工夫している。	○	今後もこのような取り組みを継続し、こまめな環境整備も行いながら居心地の良い環境にしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は、その時に過ごしたい場所で過ごしている。独りでゆっくりしたり、入居者同士で談笑したり活動を楽しまれたりしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの、好みのものを持ち込んでもらい、暮らしやすい環ぢょう作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ロスナイ、換気扇の活用、窓を開けての喚起を定期的に行っている。居室ごとの冷暖房調整ができない為、入居者の状況や好みに合わせた室温を保つよう調整している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全に配慮し、廊下、浴室、トイレ等に手すりを設置している。できるだけ自立した生活が送れるよう、必要に応じて支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を把握し、その方にあった声かけや活動を行っている。活動時は職員も一緒に行い、必要に応じてフォローしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階にはウッドデッキがあり、日光浴をしたり、そこから畑に出て園芸をすることもある。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・入居者、家族、職員が行事や面会時に関わる時間が増えており、なじみの関係ができて信頼関係ができている。職員からはこまめな情報伝達を行い、家族から意見や要望等をいただき、日ごろの支援に活かしている。
・職員全員が入居者の心身状態の細かな変化に気づくことができ、職員間で検討し、家族や主治医とも相談しながら、その方に合った支援をしている。
・職員は知識や技術向上の為、外部での研修にも積極的に参加している。
・入居者と共感する時間を多くもち、入居者から教えていただく場面を作り支えあう関係作りに努めている。
・内装や食事（献立）、外出活動を行う中で、昔を振り返る時間や季節感を感じる事ができる時間をもつよう取り組んでいる。